

はじめに

医師による診察は、患者の症候を把握することから始まります。正確な診断や適切な治療は、さまざまな症候を正しく理解して初めて可能となります。この意味で、症候に関する知識は、医療のプロとしての医師の最も基本的な能力ということができます。

医学英語の学習においても事情は変わりません。専門誌や学会、インターネット等を通じて海外のさまざまな症例を学ぶ際、症候に関する用語や表現の理解は必要不可欠といえます。例えば、世界で最も読まれている症例報告とされる *The New England Journal of Medicine* の Case Records に次のような記述があります（症候を下線で表示）。

There was a systolic ejection murmur at the right upper sternal border. An examination revealed a few beats of horizontal nystagmus and mild ataxia. The Romberg test was positive.

症候の英語を理解することが英文症例報告を読むうえでの前提となることは、この例からも明らかです。

症候の英語を学ぶ場合、単に英語を日本語に置き換えるだけではなく、その学術的な意味を理解することが重要となります。上の例にある“ataxia”を「運動失調」と訳すだけでは不十分で、それが随意運動中の筋活動の協調障害を意味し、小脳や脊髄後索の疾患を示唆すること等を理解して初めてその用語を習得したということができます。本書では、335 の基本症候の定義が英語と日本語で記述されていますので、各症候の学術的意味のみならず、「随意運動 (voluntary movement)」「小脳 (cerebellum)」「脊髄 (spinal cord)」「後索 (posterior funiculus)」等の関連語やそれ

らが使用される文脈も同時に学ぶことができます。本書による学習が終了した暁には、1,300を超える専門用語が身についていることでしょう。なお、本書に掲載した見出し語の発音は、すべて音声データとしてダウンロードが可能です。音声を繰り返し聞き、また自分でも発音してみることで、医学英語独特の発音やアクセントの特徴をつかんでください。

本書の執筆に当たっては、『医師国家試験出題基準』(厚生労働省)、『ステッドマン医学大辞典』(メジカルビュー社)、『Stedman's Medical Dictionary』(LWW)、『医学大辞典』(医学書院)、『医学英和辞典』(研究社)等を参考しました。基礎レベルの医学英語からのステップアップを考えている幅広い方々に本書を活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本書の英文校閲と見出し語のナレーションを担当していただいた福井大学語学センターのWayne Malcolm先生、解剖図の作成にご協力いただいた福井大学医学部の飯野哲先生、本書の出版に多大なご尽力をいただいた株式会社羊土社編集部の久本容子さんと溝井レナさんに厚く御礼申し上げます。

2014年9月

愛知医科大学看護学部教授
近藤真治